



牧 監 第 4 5 号
令和3年8月10日

牧之原市長 杉本 基久雄 様

牧之原市監査委員 飯塚 貴穂
同 太田 佳晴

令和2年度牧之原市水道事業会計決算の審査意見書について（提出）

地方公営企業法第30条第2項の規定に基づき、審査に付された令和2年度牧之原市水道事業会計の決算及び附属書類について、牧之原市監査基準（令和2年牧之原市監査委員訓令第1号）に基づいて審査したので、次のとおり意見書を提出します。

令和 2 年 度

牧之原市水道事業会計決算審査意見書

牧之原市監査委員

令和2年度 牧之原市水道事業会計決算審査意見

第1 審査の種類

決算審査（地方公営企業法第30条第2項）

第2 審査の対象

令和2年度牧之原市水道事業会計歳入歳出決算

第3 審査の着眼点

決算その他関係諸表等の計数の正確性を検証するとともに、予算の執行又は事業の経営が、適正かつ効率的に行われているか。

第4 審査の主な実施内容

審査に当たっては、水道事業会計の決算書、財務諸表及びこれらに関する附属書類（地方公営企業法第30条第9項の書類）について、関係法令に準拠して作成され、その会計処理が適正に行われているかを関係諸表等と照合し計数の確認を行った。

また、財政状況及び予算の執行状況については、関係職員から説明を聴取し、審査の着眼点に基づき審査を実施した。

第5 審査の実施場所及び日程

牧之原市役所 榛原庁舎 6階会議室 2

令和3年7月27日（火）

第6 審査の結果

審査に付された令和2年度決算書及び附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、その計数及び会計処理は正確であり、令和2年度の財政状況及び経営成績を適正に表示しているものと認められた。

審査の意見及び概要は、後述のとおりである。

第7 審査の意見

収益的収入の大部分を占める給水収益は、大口使用者の使用水量減少などによって、前年度より減額となったが、一方で、収益的支出は、企業債利息が減少したことによって、前年度より減額した。このため、収益的収支は黒字決算となった。

しかしながら、現在、サービスの提供に必要な施設等の老朽化に伴う更新投資の増大や人口減少に伴う料金収入の減少等により、経営環境は厳しさを増しつつあるため、経営経費の削減などに努めるとともに、有収率の向上に向けた漏水箇所の早

期発見と修繕、また、想定される大規模地震に備えた水道施設の耐震化など、安全で安心な水道水の安定供給に向けて努力されたい。

第8 決算の概要

1 予算の執行状況

(1) 収益的収支の状況

収 入

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減
水道事業収益	1,049,359,000	1,031,474,540	△17,884,460
営業収益	1,001,312,000	983,481,232	△17,830,768
営業外収益	48,037,000	47,993,308	△43,692
特別利益	10,000	0	△10,000

支 出

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額
水道事業費用	1,006,840,000	968,307,988	38,532,012
営業費用	968,144,000	944,377,335	23,766,665
営業外費用	36,696,000	23,930,653	12,765,347
予 備 費	2,000,000	0	2,000,000

収益的収入及び支出（税抜き）は、事業収益 942,048 千円、事業費用 910,774 千円、収益的収支は、31,273 千円の純利益となった。

事業収益については、給水収益 893,631 千円（構成比 94.86%）が、主なものである。

事業費用については、原水費 508,800 千円（構成比 55.86%）、配水及び給水費 66,408 千円、総係費 50,070 千円、減価償却費 260,597 千円、営業外費用 23,930 千円などである。

(2) 資本的収支の状況

収 入

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減
資本的収入	139,377,000	120,159,571	△19,217,429
企業債	110,000,000	90,000,000	△20,000,000
国庫補助金	10,000	0	△10,000
工事負担金	10,000	890,000	880,000
長期貸付金償還金	20,239,000	20,239,671	671
固定資産売却収入	10,000	0	△10,000
その他資本的収入	9,108,000	9,029,900	△78,100

支 出

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	翌年度 繰越額	不用額
資本的支出	420,656,000	340,139,977	0	80,516,023
建設改良費	304,775,000	224,360,028	0	80,414,972
企業債償還金	114,362,000	114,261,768	0	100,232
その他資本的支出	1,519,000	1,518,181	0	819

資本的収入及び支出(税込み)は、資本的収入120,159千円、資本的支出340,139千円、資本的収支の不足額219,980千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額、過年度分損益勘定留保資金で補てんした。

資本的収入については、企業債90,000千円、長期貸付金償還金20,239千円が主なものである。

資本的支出については、建設改良費224,360千円、企業債償還金114,261千円などである。主な建設改良工事は老朽管更新事業で、市道堀野新田11号線他配水管布設替工事や市道静波105号線配水管布設替工事などを行い、管路工事としては、総延長約2.5kmに渡り工事を実施した。

なお、令和2年度末の企業債借入金残高は、2,349,453千円で、前年度より24,261千円減額した。

2 業務量

項 目	年 度		比 較	
	令和2年度	令和元年度	増 減	比率(%)
行政区域内人口(人)	44,560	45,350	△790	98.26

年 度 項 目	令和2年度	令和元年度	比 較		
			増 減	比率(%)	
給水区域内人口(人)	37,172	37,904	△732	98.07	
計画給水人口(人)	44,500	44,500	0	—	
現在給水人口(人)	37,135	37,862	△727	98.08	
普及率(%)	99.90	99.89	0.01	100.01	
給水件数(件)	16,159	16,161	△2	99.99	
年間総配水量(m ³)	6,341,311	6,293,199	48,112	100.76	
内 訳	榛南水道(m ³)	4,525,334	4,503,979	21,355	100.47
	大井川広域水道企業団(m ³)	1,815,977	1,789,220	26,757	101.50
配水能力(m ³ /日)	28,500	28,500	0	—	
一日最大配水量(m ³)	18,185	19,276	△1,091	94.34	
一日平均配水量(m ³)	17,373	17,195	178	101.04	
有収水量(m ³)	4,716,174	4,776,173	△59,999	98.74	
一日一人平均給水量(ℓ/日)	348	345	3	100.85	
無収水量(m ³)	317,066	314,660	2,406	100.76	
有効水量(m ³)	5,033,240	5,090,833	△57,593	98.87	
有収率(%)	74.37	75.89	△1.52	98.00	
有効率(%)	79.37	80.89	△1.52	98.12	
施設利用率(%)	60.96	60.33	0.63	101.04	
最大稼働率(%)	63.81	67.64	△3.83	94.33	
負荷率(%)	95.54	89.20	6.34	107.10	
給水原価(円)	183.30	182.18	1.12	100.61	
供給単価(円)	189.48	190.17	△0.69	99.64	

令和2年度の給水人口は、37,135人、給水件数16,159件、普及率99.90%であ

る。また、給水原価は183円30銭、供給単価は189円48銭であった。

総配水量6,341,311 m³、また有収水量は、4,716,174 m³となった。有収率は、74.37%、施設利用率 60.96%、最大稼働率 63.81%、負荷率 95.54%となった。

注記

- 1 千円単位で表示した金額は、原則として千円未満を切り捨てました。
このため差額又は合計金額が一致しない場合があります。
- 2 比率(%)は、原則として小数点以下第3位を四捨五入し表示しました。
このため合計比率が一致しない場合があります。また、決算書等、他の書類と一致しない場合もあります。